

日本家庭医療学会会報

第66号

発行日 2009年2月28日

ホームページ : <http://jafm.org/> E-mail : jafm@a-youme.jp

第16回家庭医の生涯教育のためのワークショップ

第16回 家庭医の生涯教育のためのワークショップ

開催日時 2008年11月8日(土)~9日(日)

会場 天満研修センター(大阪市北区)

参加者数 366人

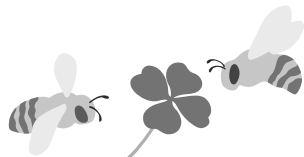
【プログラム】

1日目(11月8日)

Unsuspected killer

~疑う者は救われる、見逃しやすい救急疾患

林 寛之氏



ワークショップを終えて



生涯教育委員会 担当理事 雨森正記

今年も11月8、9日に大阪市天満研修センターにおいて第16回家庭医の生涯教育のためのワークショップを開催しました。

1日目は福井県立病院ERの林寛之先生に「unsuspected killer 疑うものは救われる、見逃しやすい救急疾患」の講演をしていただき、2日目は過去最多の29個のWSを行いました。今年は講師、受講者併せて過去最高の400名を越える方の参加をいただき、最後まで熱心に学習していただきありがとうございました。

各ワークショップの受講感想記を以下にお願いしております。今後は今回のWSで人気のあったものの再演に新しいWSを加えてさらに皆様の期待にお答えする内容のものにしていきたいと思えます。

【この号の主な内容】

第16回家庭医の生涯教育のためのワークショップ報告	1	臨床研究初学者のための学習会案内	15
第2回田坂賞受賞者決定	7	第1回日本家庭医療学会認定 家庭医療専門医 認定審査のご案内	16
平成20年度 第3回 日本家庭医療学会理事会議事録	8	リレー連載 診療所研修 あさお診療所	18
第24回日本家庭医療学会学術集会・総会案内	12	生涯学習(CME)に役立つツール特集	20
「総会のご出席調査票」ご提出のお願い	14	Scene増補改訂版発行のお知らせ	21
平成21年度 第1回 家庭医療後期研修プログラム 指導医養成のためのワークショップ案内	14	事務局からのお知らせ	22

2日目(11月9日)

1. 外来での抗菌薬の使い方のコツ
岩田健太郎氏
2. 発達障害について
市川宏伸氏
3. 明日から実践! パーキンソン病の診断と治療
木村眞司氏
4. パートナーバイオレンスを
井上真智子氏
5. 関節リウマチのみかた ~Hands-On セッション~
岸本暢将氏
6. 在宅緩和医療に求められる臨床能力
山本 亮氏
7. バリントグループ: 良好な医師-患者関係構築のために
小嶋 一氏
8. アレルギーの診かた、考え方
岡田正人氏
10. チームを持ったら学びたいビジネス理論
岡田唯男氏、朝倉健太郎氏、齊藤裕之氏
11. 虫や動物による皮膚疾患
和田康夫氏
12. レントゲンいらずの整形外科超音波診療
皆川洋至氏
13. 実際に始められるプライマリ・ケア領域の臨床研究
尾藤誠司氏
14. 家庭医による産婦人科ワークショップ:
ALSO (Advanced Life Support in Obstetrics)
イントロダクションコース
藤岡洋介氏、新井隆成氏
小嶋 一氏、吉岡哲也氏
15. 特定健診とEBM:
健康に気をつけないと罰せられる時代が来る?
名郷直樹氏



Unsuspected killer

~疑う者は救われる、見逃しやすい救急疾患



福井県立病院 林 寛之氏

よく準備された林先生のお話は、気合の入った自作のスライド眺める内に、3時間があっという間に過ぎてしまうWSでした。先生が目指されたとおり、楽しく、そして有意義な学びのひと時でした。心筋梗塞から始まり、大動脈解離、肺塞栓、写真に写らない骨折、くも膜下出血に髄膜炎、そして虫垂炎や子宮外妊娠等の急性腹症、急性喉頭蓋炎とまさに多科に渡る救急のかゆいところに手の届くお話でした。日頃どうしようかと悩んでいた内容も多く、明日からでも外来診療に役立ちそうなポイントを学んで、少し診療に取り入れてみたいとわくわくしました。(武田伸二)



外来での抗菌薬の使い方のコツ



神戸大学 岩田健太郎氏

症状・細菌・抗菌薬・症例の各項目に分けてのクイズ形式で、感染症診療のコツについて説明していただきました。“外来に最低限おくべき抗菌薬”、“ST合剤を使用するケース、注意点”といった実践的な内容から、“長引く熱の原因が腸結核であった症例”“市中獲得型MRSAと院内獲得型MRSAの違いを5つ”といったやや上級編の問題まで、それぞれに岩田先生による分かりやすい説明が入り、初心者から熟練者まで全く飽きがくることのない内容でした。最初から最後まで、参加者からの質疑応答も活発に行われ、あっという間に終了時間が来てしまいました。(西岡洋右)



発達障害について



東京都立梅ヶ丘病院 市川宏伸氏

小児を診察する機会があったり、また学校医・園医をしていれば必ず相談を受けるのが発達障害の可能性についての質問です。ところが頻度が多いにも関わらず、なかなか正しく返答するのは難しいものです。かねてより会員より希望の多かったテーマを、日本で最も多くの小児精神科治療を行っている先生にお話をいただきました。最近の動向、各疾患の定義、症状や特徴、治療について優しい語り口で詳しく教えていただきました。もっともっと聞きたいテーマでした。(一瀬直日)

発達障害についての情報源として、ご利用ください。

◎厚生労働省 発達障害情報センター

<http://www.rehab.go.jp/ddis/index.html>

◎文部科学省 発達障害教育情報センター

<http://icedd.nise.go.jp/index.html/>



明日から実践!

パーキンソン病の診断と治療



松前町立松前病院 木村眞司氏

温かみとユーモアに溢れる先生が、診察室にいらっしゃる患者さん達の映像をふんだんに交えながら実践的に教えて下さいました。WSが終わったときには会場の誰もが、(きっと)パーキンソン病(であろう患者さん)に親しみを持てるようになっていました。定番の症状・訴えのほかに、「脚がやむ、痛い」「腰が重い」と言う場合もパーキンソン病を考えてみましょう、という先生の教えに私個人的には新たな世界が開けた思いでした。何とクイズの高得点者には松前のお菓子を、参加者全員には松前漬けをいただきました。(横谷省治)


2日目(11月9日)

16. 今さら聞けない家庭医療学の基本の『キ』
藤原靖士氏、大島民旗氏、内山富士雄氏
17. プライマリケアでの泌尿器科診療を極める 1
— 頻尿診療の実際とコツ 入門編 —
松木孝和氏
18. もっと「航空機内医療」について知ろう!!
佐藤健一氏
19. 「活きた」身体所見を取る方法
川島篤志氏、北村 大氏
20. よりよい“避妊・性感染症予防支援”を目指して
～コミュニケーション・スキル：GATHER 法
稲田美紀氏、横谷省治氏
21. 家庭医は禁煙の要!ワンランクアップの禁煙支援を!!
高橋裕子氏、三浦秀史氏
22. うつ病の治療
斉藤聡明氏
23. 家庭医のための眼底鏡ワークショップ
鈴木富雄氏、石橋義彦氏
平林亜希氏、土屋賢一氏
24. Psychiatry in Primary care (PIPC) 体験コース
溝岡雅文氏、井出広幸氏
宮崎 仁氏、井村 洋氏
25. 進化を続ける褥そうのラップ療法 OpWT
鳥谷部俊一氏
26. 共通の理解基盤を築くためのコミュニケーション技法
草場鉄周氏、平野嘉信氏、松田 諭氏
27. あいまいさを科学する
山本和利氏
28. 海外とわが国のワクチン事情
— ワクチンで防げる病気はワクチンで防ぎたい —
武内 一氏
29. 小児急性中耳炎と気道感染症
上出洋介氏
30. インスリンアレルギーを克服しよう!
～今からでも遅くない、
きいてみてさわって、インスリン自己注射～
江川克哉氏、三澤美和氏






アレルギーの診かた、考え方




聖路加国際病院
アレルギー膠原病科 岡田正人氏

アレルギーは、ひとまとめに考えたり、I型からIV型まで細かく分けて覚えようとして迷路にはまったりと、扱いにくい分野と捕らえていました。今回のWSで学んだ、アレルギーをI型とそれ以外とに分ける視点で捉えると、かなりすっきりと整理ができました。またRASTの数値の意味、同じ人がアレルギーを起こしたり起こさなかったりするメカニズムなどについても、詳しく資料やデーターを用いて説明してください、たくさんのご意見を吸収させていただいたWSでした。(武田伸二)




虫や動物による皮膚疾患




赤穂市民病院 和田康夫氏

日常の診療の中で特にポイントとなる皮膚疾患を、豊富な写真とビデオを交えて解説していただきました。野山のこういったところにダニが生息しているのか、フィールド調査に行った結果は説得力のある事実でした。スミスリン抵抗性のアタマジラミが増加してきた話題は、治療にあたる学校医や園医をしている臨床家は知らない大変な流行となりえます。ムカデ咬症でおきるアナフィラキシーへの対処方法、刺毒魚に刺されたときの治療、疥癬ダニの治療法など実践的内容の数々に、参加者は大変熱心に聞き入り、質問が飛び交いました。(一瀬直日)



実際に始められる プライマリ・ケア領域の臨床研究




NHO 東京医療センター教育研究部
尾藤誠司氏

診療に追われてしまい、なかなか研究にまで手を出せない臨床家に、臨床現場で生まれる疑問(Clinical question)をいかに研究(Research question)に結び付けて行くかを学ぶWSでした。具体的な現場での疑問を解決するのに、どのようにアプローチしてゆけば結果が導けるのか、参加者それぞれの意見があり、実際に臨床の中で研究を始めると、楽しいだろうと感じました。(武田伸二)



家庭医による産婦人科ワークショップ


ALSO (Advanced Life Support in Obstetrics)
イントロダクションコース



ミシガン大学 家庭医療学科 藤岡洋介氏
金沢大学 産婦人科 新井隆成氏
手稲溪仁会病院 小嶋 一氏
恵寿総合病院 吉岡哲也氏

ALSO (通称：オルソー)は、言わば、産科版ACLSで、産科エマージェンシーに対応するためのプロトコルの研修システムのことで、11月22・23日には日本で第1回目の研修会を金沢で開催し、来年以降も続けていく予定とのことです。今回はその予告編として、日本版ALSO開催に力を注いでおられる先生方が、研修コースの一部を紹介という意味で行われました。取り上げられた、テーマは『分娩後出血』でありまして、前半は、ミシガン大学の藤岡先生に『分娩後出血』のリスク・原因・対処などを中心に講義していただき、ところどころ産婦人科の新井先生や家庭医研修にALSOを積極的に取り入れようとしている、手稲溪仁会病院の小嶋先生や恵寿総合病院の吉岡先生にコメントを頂きながら進められました。後半は、人形を使用して「助産師」「産科医」「看護師」「研修医」役に

分かれて、シナリオに即して『分娩後出血』の対応をロールプレイ形式で研修しました。人形相手とは言いつつも、実際の臨床現場に即した、出血量・バイタルなどの状況設定や、ルート確保・薬品の投与タイミング、「スタッフ応援とそれらへの指示」などなど…現場でいかに冷静に判断・対処していくか…。多少エマージェンシーの現場を知っているだけに思わず手に汗をにぎってしまう場面もありました。産科医不足が社会問題となっている現在、今後の「家庭医として関わる可能性も考えざるを得ない」などいろいろなことを考えさせられ、非常に刺激となるワークショップでありました。なお、今後の ALSO の開催について御興味のある方は、藤岡洋介先生より御連絡頂けるようなので、家庭医療学会事務局にメールにて御相談下さい。(木村耕三)




もっと『航空機内医療』について知ろう!!



関西リハビリテーション病院 佐藤健一氏

誰もが遭遇する可能性のある航空機内医療について、地上と上空（航空機内）での生理的な違いから、起こりやすい病態、対処方法まで、具体的に教えていただきました。これまで航空機内医療に遭遇したことがない参加者がほとんどでしたが、航空機内に設置されている器材についてのリスト、機内で聴診する際に問題となる周囲の雑音（実際に聞かせていただきました）など、実際に遭遇した際のイメージをつかむことができる内容でした。“地上の医師と常に連絡できる状態になっており、無理せず自分でできる範囲のことをすればよい”という、参加者の機内医療への不安を和らげてくれるメッセージもいただきました。(西岡洋右)




よりよい“避妊・性感染症予防支援”を目指して

～コミュニケーション・スキル:GATHER法

三重大学医学部附属病院総合診療部 稲田美紀氏
横谷省治氏

若者と産み終え世代を望まない妊娠から守ろう、確実に女性が主体的にできる避妊法を広めよう、蔓延する性感染症に予防的アプローチをしよう。稲田先生の3つの提案は、家庭医こそ絶好の立場にいるとの考えからです。知識を学ぶとともに、外来でどうきっかけを掴むか、参加者で智恵を出し合いました。クライアントのニーズを引き出し、主体的な選択を手助けするカウンセリング技法は、多くの場面で応用できそうです。一般論を述べるのでは不十分で、個別具体的な説明が必要なことも印象的なロールプレイで学びました。(横谷省治)



うつ病の治療



斉藤メンタルクリニック 斉藤聡明氏

心優しい内科医が、丁寧にからだの治療をしているうちに、いつの間にかうつ病が治っていく。これがうつ病治療の王道かもしれません—静かにゆったりした語り口で先生は仰いました。私たちは時として、患者さんを治そうと前のめりになってしまうのですが、医師が紡ぎ出す一体感で患者さんは治っていくのだそうです。反応性うつ病、内因性うつ病、今注目されている双極Ⅱ型障害を見極めることは重要です。薬剤選択も具体的に教わりました。が、まず薬ありきでなく前に述べたように精神療法が大切なのです。(横谷省治)

進化を続ける 褥瘡のラップ療法 OpWT



相澤病院褥瘡治療センター 鳥谷部俊一氏

ラップ療法は、密閉湿潤環境での治療から開放湿潤環境での治療へと進化している、ここからこのWSが始まりました。ラップ療法の弱点であった、浸出液の多い褥瘡でのにおいや正常皮膚のふやけなどの問題は、穴あきのビニール袋の中に吸湿性の良いおしめを入れて褥瘡を覆うこと（開放湿潤環境）で解決できる、実践的なWSでした。また褥瘡の場所や周りの皮膚の状態に応じた対処法、壊死組織の処理方法なども聞くことが出来、明日からでも実践で使えるWSの内容でした。（武田伸二）

海外とわが国のワクチン事情

—ワクチンで防げる病気はワクチンで防ぎたい—



耳原総合病院 武内 一氏

小児の発熱見みる上での問題点として、とくに髄膜炎は診断が困難であり、Hib 髄膜炎は重症化するケースが多く、そのためにはワクチンが非常に重要であること。周知の通り、日本は海外に比べてワクチンに関する体制が大きく遅れているが、髄膜炎関連ワクチン（Hib ワクチン、肺炎球菌ワクチン）の普及により、日本の髄膜炎のうち80%が消失するという衝撃的な内容も教えていただきました。最後に、"細菌性髄膜炎から子どもたちを守る会"の活動についての報告、本年12月に発売されるHib ワクチン（アクトヒブ）の具体的な説明をしていただき、非常に考えさせられるワークショップでした。（西岡洋右）

インスリンアレルギーを克服しよう



長浜赤十字病院 第一内科 江川克哉氏
長浜赤十字病院 三澤美和氏

江川先生によって糖尿病の治療薬（経口血糖降下薬、インスリン）に関するレクチャーが初めに行われ、その後は三澤先生によるインスリンの自己注射のワークショップが行われました。レクチャーでは各経口血糖降下薬の特徴や作用機序など、日頃併用することの多い経口血糖降下薬を今まで以上に適切に処方するコツを学ぶことができました。インスリンについても超速効型の使用法、血糖を下げていくことの目的・意義などを含めて詳細に解説していただきました。ワークショップでは自己注射の指導に使用する器具を実際に触ることができ、器具の勉強になると共に、インスリン使用者の外来時の診察・指導ポイントを学ぶことができました。（佐藤健一）



第2回田坂賞受賞者 決定

第2回田坂賞受賞者は 西伊豆病院院長 仲田和正先生 に決定しました。

仲田先生はもともと整形外科が御専門ですが、自己研鑽を重ねながら、「田舎で」全科的医療を実践しておられます。

御著書「手・足・腰診療スキルアップ」や家庭医療学会生涯教育セミナーなどを通して、専門外の私たちに実践的“外来”整形外科診療を伝授してくださっています（時にはご自分の膝関節に生食水を注射までして）。

またTFCにおける、「最重要点は…」でおなじみのNEJMやLancetの総説などの紹介／解説は皆さんも重宝していることと思います。

選考の際に仲田先生よりいただいた「家庭医療についての思い（家庭医としてor専門医として）」の文章を以下に引用します。

「もともと自治医大の1期生でしたので、僻地勤務の義務もあり多科ローテートは当然でした。色々な科を回ることにより学際的な視点を持つことができるようになり、整形外科に進んでからもその経験は大変役立ちました。

田舎で診療をしておりますと全科的に対応せざるを得ませんし、独居老人であれば必然的に都会にいらっしゃる子供さんなど家族構成も知らなければなりません。また家族全員が患者さんであることも珍しくありません。家族構成を知り既往歴も知り、こういうのが家庭医というのかなあと考えております。

現在、インターネット普及のお陰で僻地にいましても医学の勉強にはほとんど困らなくなりました。田坂先生が始められたメーリングリストTFCは、家庭医の大変力強い味方となり、厚生省のどんな施策よりも僻地医療を改善したと思います。

より多くの若い先生方が、僻地医療を一度は経験されることを希望します。僻地医療はとても面白く、challengingなのです。」

授賞式は2009年プライマリ・ケア関連学会連合学術会議（5月29 - 31日、国立京都国際会館）の会期中、31日午前に行なわれる予定です。そこで仲田先生の教育的なご講演を20分ほどしていただく予定です。皆さんふるってご参加ください。

田坂賞選考委員会委員会

内山富士雄（選考委員長）

雨森正記・松下明・山本和利（日本家庭医療学会理事）

中西重清・藤原靖士・早野恵子（TFC幹事会）

大滝純司・高橋裕子（学識経験者）

山田隆司（オブザーバー、日本家庭医療学会代表理事）

平成 20 年度 第 3 回日本家庭医療学会理事会議事録

日 時：2008 年 11 月 9 日（日）8:30～12:30

会 場：天満研修センター 802 号室

出席者：代表理事 山田隆司

副代表理事 竹村洋典（以下は、委任状による出席）葛西龍樹

理 事 朝倉健太郎、雨森正記、内山富士雄、大西弘高、大橋博樹、草場鉄周、
小林 裕幸、長 純一、西村真紀、伴信太郎、藤沼康樹、前野哲博、
松下 明、横谷省治

監 事 亀谷 学、山本 和利

幹 事 福土元春

若手家庭医部会 松井善典

理事会に先立ち、山田代表理事より 10 月 27 日にご逝去された白浜雅司理事に対し、長年の学会活動への貢献に対しての感謝が述べられた後、全員で一分間の黙とうを行った。

1. 会員数報告、新入会員承認、会費未納退会者

山田代表理事より、2008 年 10 月 31 日現在の会員数について報告があった。

つづいて新入会者について承認された。

会員数：1,896 名（うち、医師会員 1,750 名）

入会者： 69 名

（2008 年 8 月 1 日～2008 年 10 月 31 日）

退会者： 1 名

（2008 年 8 月 1 日～2008 年 10 月 31 日）

復帰者： 2 名

（2008 年 8 月 1 日～2008 年 10 月 31 日）

未納者： 51 名（2005 年 3 月 31 日まで納入済み、2008 年度末時点で未納の場合、退会となる人）

会費未納率：28%（2008 年 10 月 31 日現在）

2. 平成 20 年度収支決算中間報告

山田代表理事より、平成 20 年度会計年度の中間報告があった。各事業、管理費の収支見込みと 9 月末の実績について説明がなされた。年度末の繰越残高は 200 万円弱が予想されることについて報告があり、合併に向けて適正な収支を見込んでいきたいと述べられた。また、今後の学会運営についての意見交換が行われた結果、2010 年度末までの学会誌の発行予定回数を 6 回

から 5 回に変更すること、学会開催事業への参加会員に対し会費納入状況の確認を行うことが決定した。

3. 常設委員会・部会報告（担当理事）

◇ 編集委員会《会誌『家庭医療』》

藤沼理事より、11 月下旬に会誌秋号が完成予定であること、合併を前にした企画を考案中であることが報告された。

◇ 広報委員会

松下理事より、広報委員会の活動について以下の報告があった。

● 会報について

予定通り年 4 回の発行を続けており、次号は今月下旬に発行される予定である。

● 学会 HP について

「家庭医療学会 HP に関するアンケート」を実施した。今回の結果を踏まえて内容等を改善していく予定である（結果は学会 HP の会員専用ページに掲載）。

● 市民向け HP について

現在活動が停止している状態であるため、既存の委員を改めて委員し直したうえで企画を進めていく。

● 患者一般向け出版物について

前回の理事会で報告があった「医者からもらった薬を整理しませんか（仮題）」の企画は動き始めたところであり、来年中の出版を目指して進めている。

●委員会としての広報活動について

特に来年度の専門医試験や来年3月に正式なプログラムの修了者が誕生することに関する広報活動について、どのように新しい家庭医というものを売り出していくかを委員会として考案中である。

また、大橋理事より、学会HPに掲載された後期研修プログラムの内容について、全てのプログラムが給与や条件面など同じ項目を記載して比較できる内容にしてほしいとの提案が初期研修の先生から個人的に寄せられていることが報告され、広報委員会で検討されることになった。

◇生涯教育委員会

●生涯教育ワークショップについて

雨森理事より、今回は昨年の1.5倍となる400名の参加があったことが報告された。来年度の開催地は、京都で学術会議が開催されること、参加者アンケートの結果などを参考にしながら最終決定を行う予定であることが述べられた。また、昨日の委員会では、合併に向けてPC学会の生涯教育委員に加わっていただき、拡大委員会として内容を考える案などが出されたことなどが報告された。

●サテライトワークショップについて

伴理事より、9月に広島で開催されたサテライトワークショップについて、一瀬委員の尽力により予定人数とほぼ同じ参加者が集まり、収支マイナス2万円、未収金が22000円となったことが報告された。また、ワークショップ講師一名が家庭の都合によりキャンセルとなり、急遽、別の講師が2コマのセッションを行ったことが報告された。この件について、伴理事より臨機応変に対応した講師に対し2セッション分の謝金をお支払いしたいとの提案があり、承認された。今後は、今回のワークショップを担当した一瀬委員によるワークショップの手順書を作成したうえで、次回は名古屋で開催することを検討していること、今回の参加者は地元医師会の参加者が多かったことから、委員会では地元医師会とのリンクに貢献できるのではないかと意見が出されたことが報告された。

●出版活動のサポートについて

伴理事より、生涯教育委員会と分担して『SCENE』の増補版を作成したこと、その他の出版活動については今後メーリングリストを通じて継続して検討することとなったことが報告された。

●協力委員について

伴理事より、企画運営に参加していただく協力委員を公募する予定であることが述べられた。

◇研究委員会

●臨床研究初学者ワーキンググループについて

大西理事より、4回のワークショップを全て終了し、支出、収入ともに28万円となったことが報告された。また、同ワークショップがワーキンググループにより運営されていることについて位置づけが曖昧になっているため、委員会として運営する案が出され、合意を得た。また、次年度も継続する予定であることが述べられた。

◇倫理委員会

前野理事より、9月以降の申請が4件あったことが報告された。

大西理事より、臨床研究に関する倫理のルールやシステムの現状について、雑誌等を通じて発信していく必要があるのではないかと意見が出された。

◇後期研修（認定）委員会

竹村副代表理事より、家庭医療専門医認定試験を2009年7月19日、20日に東京慈恵医科大学で行うことが報告された。また、以下の報告があった。

●合併後の専門医認定制度について

- ・3学会合同認定制度検討委員会で作成した案を3学会合同会議で検討した後、各学会にてさらに議論を重ね、最終的に3学会合同会議にて決定する流れになっている。
- ・現在は3学会合同認定制度検討委員会で要綱を作成しており、プログラム認定に関しては家庭医療学会のプログラム認定の精神も温存した形で進めることが決定している。

- ・試験に関してはプライマリケア医の認定と同様に行われるだろうと考えているが、ポートフォリオとしての事例報告評価を行うかについては今後の話し合いによって決まる予定である。
- ・要綱に付随して多くの細則が作成されることになっており、各学会で分担して作業を進めた後に今月末の会議でひとつひとつ検証することになっている。当学会ではプログラム認定、研修医の認定、プログラム責任者の会に関することなどを担当。

●プログラム責任者の会について

プログラム責任者の会の規定に従い、以下のとおり各ブロックの責任者、プログラム責任者の会代表を決定した。

■プログラム責任者の会代表

高木 幸夫 先生（京都民医連中央病院）

■北海道・東北ブロック

草場 鉄周 先生（北海道家庭医療学センター
本輪西サテライトクリニック）

■関東ブロック

前野 哲博 先生（筑波大学附属病院 総合臨床教育センター）

■中部・北陸・甲信越ブロック

尾関 俊紀 先生（協立総合病院 総合診療部）

■近畿ブロック

高木 幸夫 先生（京都民医連中央病院）

■中国・四国ブロック

松下 明 先生（奈義ファミリークリニック）

■九州・沖縄ブロック

中桶 了太 先生（長崎大学医学部歯学部附属病院）

プログラム責任者の会よりオブザーバーとして高木先生が出席され、以下の意見が述べられた。

- ・「北海道・東北」や「九州・沖縄」など広範囲なブロックは交流がしづらい部分があり、ブロック内での活動をどのように行っていくかが課題である。
- ・近畿では来年3月に後期研修医のポートフォリオ発表会を計画しており、後期研修医の学びの方法などを共有しながら、指導医やプログラムへのフィードバックを行う予定。

- ・費用的な面では、プログラム登録料の還元によるプログラムやブロックに対する援助が必要なのではないかという声が出ていた。この件について竹村副代表理事より、登録料は現在プログラム責任者の会の開催のために全て使用されており、各ブロックの行事の会場費などについては、その都度、話し合いという形で進めさせていただきたいとの発言があった。
- ・プログラム責任者の会の副代表2名はまだ決まっていないが、今後、活動に応じて考えていく予定である。

◇FD委員会

草場理事より、10月に開催された第2回指導医養成ワークショップの内容について報告があった。今回、参加者のニーズ調査を行った結果、対象者をある程度明確にした指導医養成を行う必要があると認識し、来年度は回数や内容等について検討し具体化していく予定であることが述べられた。また、第3回は2009年2月に東大で行うことが報告された。

◇若手家庭医部会

冬期セミナー担当の松井先生より、第4回冬期セミナーの準備状況について以下の報告があった。

- ・2009年2月14日、15日に東京大学で開催。定員100人。
 - ・若手家庭医部会の一番のビジョンである「学びのサポート」を意識した内容。
 - ・募集開始は12月の上旬を予定しており、プログラム責任者の会には、研修医への出席の呼びかけをお願いしたい。
- また、講師謝礼について理事会の意見を含めて検討した結果、謝礼無し・旅費支給・参加費無料とすることが決まった。

◇学生研修医部会

小林理事より、第20回夏期セミナーについて、会計報告はまだ出来ていないがほぼ予算通りとなる予定であることが報告された。また、第21回夏期セミナーは、2009年8月7日（金）～9日（日）に群馬県の「ホテル磯辺ガーデン 舌切

雀のお宿」で開催を予定しており、内容について鋭意検討中であることが報告された。

4. ワーキンググループ報告

(担当理事または代表者)

◇患者教育パンフレット作成ワーキンググループ
松下理事より、現在5つほど形が出来上がってきており、今年度末までにある程度の形に仕上げる方向で進めていることが報告された。

5. 3学会の合同について

山田代表理事より、3学会合同について以下の報告があった。

- ・隔月ペースで、3学会の代表が集まり審議を続けており、現在の大きな課題は合同認定に関する内容である。
- ・法人化検討委員会にて進められてきた定款作成は、前回の会議(10月)で定款のひな形が提示された。
- ・法人の名称や定款に記載すべき法人の活動目的は、3学会合同会議で作業を進めている。
- ・学会誌検討委員会が新たに設置され、当学会からは藤沼理事と長理事を委員として選出した。
- ・日本医師会との合同協議は、総合医の認定に関する事項などが多少難航している。
- ・厚労省では「安心と希望の医療確保に関する具体化ビジョン」検討委員会の下に「医療における安心・希望確保のための専門医・家庭医(医師後期臨床研修制度)のあり方に関する研究会」が設置され、葛西副代表理事が班員の一人になっており、12月5日の次回の班会議に3学会の会長が招聘されている。
- ・新学会の設立当初の役員は現行の3学会の理事をそのまま移行し、その後は直接選挙で選出する予定である。

6. 後期研修プログラム三次募集の申請について

竹村副代表理事より、後期研修プログラム3次募集の申請について説明があり、2008年12月1日(月)～2009年1月18日(日)まで受け付けることが決定した。

また、審査方法についての見直しが提案され、審議の結果、申請書のみの審査を担当する「認

定プログラム審査委員会」を新たに設置することが決定し、大西理事、西村理事、草場理事が委員となった。

7. 家庭医療専門医認定試験の要綱や提出書類について

大橋理事より、専門医認定試験に関する書類について説明があった。

特に事例報告書(ポートフォリオ評価)の内容について意見交換が行われ、今回の意見を踏まえて後期研修(認定)委員会で進めていくことになった。

8. 第23回(2008年)学術集会収支報告

山田代表理事より、収入750万円に対して1150万円の支出があり、収支差額として400万円弱の赤字となったことが報告された。

9. 第24回(2009年)学術集会について

雨森理事より、2009年5月30日、31日に京都国際会館で開催される合同学術会議の進捗状況について以下の報告があった。

- ・講演とシンポジウムとワークショップを合わせて30個を用意しており、そのうち当学会の企画は半分。
- ・11月中にオープンにして、12月中に登録開始を予定している。

10. 平成20年度日本家庭医療学会 研究補助金について

今回は課題研究を設定せず、自由研究のみを募集することとなった。

11. 特別賞(田坂賞)について

選考委員会の委員長について、内山理事に依頼することが決定した。

12. 倫理委員会委員長の選出について

倫理委員長として山本理事が選出され、承認された。

13. その他

山田代表理事より、白浜理事の功績を何らかの形で残したいとの提案があった。

第24回 日本家庭医療学会学術集会・総会

2009年プライマリ・ケア関連連合学術会議

テーマ：**信頼される地域医療をめざして**

会 期：**2009年5月30日(土) ~31日(日)**

会 場：**国立京都国際会館**

〒606-0001 京都市左京区岩倉大鷲町 422 番地
京都市営地下鉄烏丸線 国際会館駅下車、徒歩 5 分

大会長：**雨森 正記** (医療法人社団弓削メディカルクリニック理事長)

事務局：**2009年プライマリ・ケア関連学会連合学術会議事務局** (予定)

(日本プライマリ・ケア学会常設事務局内)

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-5 東京都医師会館 302 号

TEL. 03-5281-9781

FAX. 03-5281-9780

大会長挨拶



第 24 回家庭医療学会学術集会・総会は、2009 年 5 月 30 日と 31 日の両日、京都国際会館におきまして「信頼される地域医療をめざして」という基本に立ち返ったテーマで日本プライマリ・ケア学会、日本総合診療医学会インタレストグループと合同で開催させていただきます。

本年は、本学会も日本プライマリ・ケア学会、日本総合診療医学会との合併、また長年検討されてきた家庭医療後期研修プログラムを終了する研修医が初めて出てくるなど今後さらなる発展するために新たな一歩を踏み出す年であると考えます。総会におきましては皆様のご意見を直接伺い集約できる場となることを期待しております。

また、今回の学術集会では、今後の学会の大きな柱の一つと考えます生涯教育に力を入れたものにしようと考えております。そのため、他の学会の教育、生涯教育、研究の担当の先生方と協力して、シンポジウム、教育講演、ワークショップあわせて 30 以上のセッションを用意しております。医学生、研修医からベテラン医師、万年研修医まですべての家庭医が学ぶことができ、しかも明日からの診療に生かせる知識、技術を持って帰っていただけるような企画を満載しております。これまでになく楽しくてためになる総会になるように企画しています。多数の会員のご参加をお待ちしております。

皆さん 5 月に京都でお会いしましょう。

プログラム

シンポジウム

信頼される地域医療をめざして
記者がもっと聞いてみたい日本の家庭医 大岩ゆり氏他
他

教育講演

ネパールでの医療活動とプライマリ・ケア 榎戸健次郎氏
スタッフのためのラップ療法 鳥谷部俊一氏
一度みたら忘れない身体所見 須藤 博氏
他

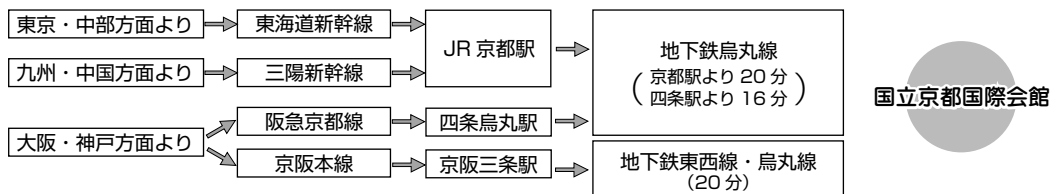
ワークショップ

家庭医のための耳鏡・眼底鏡 鈴木富雄氏
素人排尿障害 森永太輔氏
外来診療でエビデンスに困ったら 藤沼康樹氏
他

学会賞候補演題発表

田坂賞受賞講演

詳細は以下のホームページをご参照ください。
<http://jafm.org/autumn/24th/index.html>



「総会のご出席調査票」(4月上旬発送予定)ご提出のお願い

5月30日(土)13:45～14:45に総会が開かれます。

今回の総会では、2010年4月に予定されている3学会合併の為の解散について決議する予定です。

「総会のご出席調査票」は4月上旬に発送を予定しております。

ご出席の場合は「ご出席調査票」の出席に丸をつけてご署名を、当日やむを得ずご出席願えない場合は、委任状欄にご記入いただき、署名・捺印のうえ、必ずご返送下さいませようお願い申し上げます。

定款では解散について下記のように規定されており、正会員総数の4分の3以上の承諾が必要となります。

(解散)

第38条 1. この法人は、次に掲げる事由によって解散する。

- (1) 総会の決議
- (2) 目的とする特定非営利活動にかかる事業の成功の不能
- (3) 正会員の欠亡
- (4) 合併
- (5) 破産
- (6) 所轄庁による設立認証の取り消し

2. 総会の決議により解散する場合は、正会員総数の4分の3以上の承諾を経なければならない。

平成21年度 第1回

家庭医療後期研修プログラム指導医 養成のためのワークショップ

日時：平成21年6月27日(土)～28日(日)

開催場所：東京(会場未定)

HP：<http://jafm.org/fd/>

内容等決まり次第、上記HPにてご案内いたします。

平成21年度「臨床研究初学者のための勉強会WS(案)」



研究委員会では、家庭医療にまつわる研究の推進という役割を担っています。今年度は、研究に関心を持っている人たちに、具体的な知識や技法を学んでもらうことを目標とし、単発のワークショップを4回予定しています。なお、下記に関しましては、今後若干の変更の可能性がありますことをご了承下さい。

初学者が気軽に足を運べる内容にしたいと考えておりますので、皆さまの参加を心待ちにしております。

研究委員会 委員長 大西 弘高

【平成21年度WS日程及び内容(全4回)】

第1回 2009年5月16日(土) 14:00～19:00

テーマ：EBMと臨床研究の関係

場 所：東京大学

第2回 2009年8月8日(土) 14:00頃～9日(日) 昼頃(一泊二日で実施)

テーマ：統計解析をしてみよう

場 所：群馬県 ホテル磯部ガーデン 舌切雀のお宿

「家庭医療学夏期セミナー(8月7日～9日)」の開催場所以て実施

第3回 2009年11月7日(土) 午後

テーマ：質的研究の基本

場 所：天満研修センター(大阪市北区)

「生涯教育のためのワークショップ(11月7日～8日)」でワークショップを実施

第4回 2010年2月13日(土) 14:00～19:00

テーマ：質問紙の作り方

場 所：東京大学

「若手家庭医のための冬期セミナー(2月13日～14日)」

でワークショップを実施



<http://jafm.org/cp/index.html>

詳細が決まり次第、上記HPにてご案内いたします。

第1回 日本家庭医療学会認定家庭医療専門医 認定審査のご案内

試験日時：平成21年7月19日（土）または20日（日）

試験会場：東京慈恵会医科大学 OSCE センター

申請受付期間：4月1日～5月25日（必着）

1. 申請資格

日本家庭医療学会認定家庭医療専門医要綱により、次のように定められています。

第11条 専門医の申請をするには、以下の要件を満たしていること

- (1) 日本国の医師免許を有していること
- (2) 厚生労働大臣による戒告や医業停止、免許の取り消しの処分を受けていないこと
- (3) 日本家庭医療学会認定後期研修プログラムを修了していること
- (4) 本学会の会員であり、申請年度の会費が納入されていること

(3) について

平成21年7月18日までに修了していることを要します。また、所属後期研修プログラムが学会認定を受けていなければなりませんので、プログラムが平成18年度仮認定を受けており、かつ平成19年度以降も本認定を受けている必要があります。

(4) について

事務局で会員歴、年会費納付状況を確認します。後期研修期間中に会員資格の失効期間がある方は受験できません。不明な点は学会事務局にお問い合わせ下さい。

2. 審査方法

ポートフォリオと試験により審査します。試験は論述試験（Modified Essay Question）および臨床能力評価試験（Clinical Skills Assessment）です。

(1) ポートフォリオ

ポートフォリオ評価細則に定めた5項目（Bio-psycho-social, 家族カンファレンス, 複数の健康問題, 行動変容, ヘルスプロモーション）についてそれぞれ1事例ずつ、計5つのポートフォリオを申請時に提出してください。原則として指定書式としますが、同等の書式であれば研修中に作成したポートフォリオでも構いません。

(2) 試験

日本プライマリ・ケア学会、日本総合診療医学会と合同で運営し、合否の判定は本学会が独自に行います。

日時：平成21年7月19日（日）または20日（月・祝）

3学会合同試験実施委員会がどちらかの日を指定します。指定された日時に集合してください。

会場：東京慈恵会医科大学1号館8階 OSCE センター（東京都港区西新橋3-25-8）

3. 申請方法

(1) 提出書類 (必要書類は学会 Web サイトからダウンロードして下さい)

- ・ 認定申請書
- ・ 認定審査料の振込金受取書 (コピー)
(インターネットバンキングの場合は、振込の事実がわかる画面を印刷したもの)
- ・ 研修記録書
- ・ ポートフォリオ評価のための書類

(2) 認定審査料：30,000 円

銀行振込のみ受け付けます。

振込先	銀行名：三井住友銀行 大阪本店営業部 口座番号：普通預金 3468473 口座名義：日本家庭医療学会 (ニホンカテイイリヨウガツカイ)
-----	---

- * 振込手数料は振込人の負担となります。
- * 振込人欄には必ず受験者の氏名を記入して下さい。(施設名では個人を特定できません)
- * 領収書は発行しません。振込金受取書、利用明細書などの原本を大切に保存して下さい。

(3) 年会費

平成 21 年度の年会費を支払い済みであることが受験の要件です。5 月 31 日までに支払いを済ませて下さい。年会費の振込用紙は 4 月上旬の学会送付物に同封されます。口座振替を選択されている方は 5 月中に振替がなされるので、特に手続きは不要です。

(4) 申請受付期間

平成 21 年 4 月 1 日 (水曜日) ～ 5 月 25 日 (月曜日) (必着)

(5) 申請書類等送付先

日本家庭医療学会事務局 (住所は会報の末尾をご覧ください)

- * 封筒の表に「認定審査申請」と朱書きして下さい。

4. 合格発表

2009 年 7 月末頃に可否の結果を受験者に通知します。

5. 登録手続き

合格した受験者は、合格通知と共に送る案内に従って、期日までに登録料 10,000 円を払い込んでください。登録料の払込みを確認した後、専門医名簿に登録します。

6. 認定証交付式

8 月の夏期セミナー中に専門医認定証交付式を行います。

学会 Web サイトでは情報を逐次更新します。受験予定の方はこまめに確認して下さい。

日本家庭医療学会後期研修認定委員会
委員長 竹村 洋典



リレー
連載

診療所 研修

あさお診療所の紹介

所長：西村 真紀
後期研修医：櫛笥 永晴
前期研修医：小川 綾



スタッフ

あさお診療所は、川崎市の北部、小田急線の新百合ヶ丘にある開設13年目の医療生協の小さな診療所です。新百合ヶ丘は30年前から急速に開発が進んできたいわゆる神奈川県（神奈川県に自宅があるが日中はほとんど東京都で生活する人）の住むベッドタウンで、患者さんは元気な60～70代の女性が圧倒的多数を占めており、退職直後の男性も多いです。

スタッフは所長と研修医、看護師2名、事務3名です。二年前に西村が所長に赴任し、内科一本でやっていた診療所に家庭医療を少しずつ浸透させてきました。はじめは、「巻き爪も診るの?」「往診にクスコを持って行く?」とスタッフも驚いていましたが、患者さんや組合員さんに家庭医療をわかってもらうにはそれほど時間がかかりませんでした。研修を受け入れてから往診数も徐々に増え、特定健診、乳児健診、予防接種、子宮ガン検診、乳ガン検診も積極的に行っています。家庭医という言葉もテレビやマスコミでよく聞くようになり、組合員さんは家庭医の活動と育成に非常に興味を持っています。

研修では、川崎市立多摩病院の後期研修、日生協家庭医療学レジデンス東京、川崎医療生協・川崎協同病院初期研修、の3つのプログラムに関わっています。特徴としては、診療所医

療のみならず医療生協ならではの組合員さん対象の講演会や催しなどの健康増進の活動が多いことです。

研修の様子を二人の研修医から伝えてもらいます。

あさお診療所での家庭医療後期研修 (櫛笥)

私は川崎市立多摩病院で家庭医療後期研修プログラムに所属しており、診療所研修をあさお診療所で行っています。川崎市立多摩病院は400床弱の、いわゆる急性期病院であり、継続性・包括性・家族へのケアなどは十分に学ぶことができません。あさお診療所はいわゆる地域のかかりつけ医として、組合員を含め地域全体から信頼される診療所であり、その中で伸び伸びと研修をしています。

あさお診療所のある新百合ヶ丘には、たくさんの診療所があります。あさお診療所から半径500m以内にある診療所・クリニック（眼科・歯科は除く）はなんと16もあります。もちろん、皮膚科、小児科、婦人科など専門科もありますが、家庭医療を行うあさお診療所からすればすべてライバルであり、こういった環境の中、何とか新患を増やせないかと考える毎日です。

医療機関が潤沢にある環境のため、大学病院に糖尿病で通い、高血圧をあさお診療所で診ている患者さんや、前立腺肥大で泌尿器科クリニックに受診しつつ、骨粗しょう症・腰痛をあさお診療所で診ている患者さんなど、かかりつけをあさお診療所以外にも持っている方が多くいらっしゃいます。家庭医療研修中の立場からすると、「すべて診ますよ!」という包括性をアピールしたいのですが、あさおにはあさおで必要とされる医療スタイルがあるのだと、最近なんと



研修のようす（左から小川、西村、櫛笥）

なく分かってきました。患者さんは取捨選択しながら医療機関を賢く受診しているのだらうと思います。

新患を増やす一つの方策として、また診療所研修中のQI (quality improvement) の一環として、診療所のホームページを立ち上げました。そして、せっかく来てくれた方に、また受診したいと思っていただけるような、そういう診察をしたいと心がけています。

あさお診療所は医療生協の診療所であり、地域の健康増進の活動にも力を入れています。夏休み期間に

は、地域の子供対象の「きっず診療所」を開きました。心臓の話、栄養の話、超音波検査や心肺蘇生



きっず診療所

をやってみる、など、子供たちがキラキラと目を輝かせて人形の心臓を押していたのが印象的でした。また、地域の高齢者に向けて「アクティブ・エイジング」に関する講演会を開き、生き生きと歳を重ねることの大切さをお話しました。あさお診療所のある川崎市麻生区は、全国で2番目に長寿(男性)の地域で、みなさん熱心に聞いていらっしゃいました。

あさお診療所は、事務・看護師・医師が一丸となって患者さんを診ている診療所です。毎日の患者さんのカンファレンスもいつも全員で行います。患者さんの medical home として、地域に根を張って活動するあさお診療所で研修できて、大変うれしく思っています。

あさお診療所での初期研修

(小川)

はじめまして。家庭医志望の川崎協同病院2年目の初期研修医です。地域保健医療研修として、あさお診療所で1ヶ月研修しました。

はじめに、研修目標を発表する時間があり、目標として①日本の診療所での医療を体験する。②あさお診療所への地域のニーズを知る。③家

庭医療学の基本を学ぶ。④1ヶ月間楽しむ! を挙げました。

スケジュールは、週5-6単位の外来研修を中心に、週2単位往診につかせてもらい、訪問看護と介護老人保健施設に1単位ずつ行きました。

外来では、健診診察と結果返し、インフルエンザワクチン接種、急性上気道炎等を中心に延べ125名程度をゆっくり診ることができました。logを付けて、生活習慣や健診についての指導、スクリーニング、検査のお勧めなどの介入をしました。外来での指導は、Clinical-Hand 理論に基づいた振り返りワークシートを使って、指導医、家庭医療後期研修医と、疾患評価・治療について/患者さん心理について/背景等の評価介入についてふり返りました。

院外では、通院患者さん1名と往診患者さん1名のお宅の訪問/外来/往診/訪問看護/訪問マッサージ/デイ・ケア/ケアプラン見直し/合同カンファレンスに参加し、地域生活をささえる介護サービスへの理解が深まりました。また高齢者総合評価レポートを作成し、それをもとに診療所スタッフ全員でカンファレンスをして介入を考えました。

保健予防活動への参加として、インフルエンザの予防や治療について、待合室や、組合員さんの美容院、診療所内での食事会でお話しました。

あっという間に初期研修1ヶ月が終わり、当初の目標にあげたことはまずは経験出来たと思います。家庭医後期研修へ向け、とても体系だった診療所初期研修を受けることが出来、幸せでした。家庭医療ではいろいろ出来る事があってわくわくしました。これから責任が出てくると大変だろうと思いますが、後期研修も、その後も、ずっと楽しめそうな仕事だと思えることが出来ました。



待合室でのお話

「生涯学習(CME)に役立つツール」特集



井上 哲也

船橋市立医療センター救命救急センター

全国のおあ兄さん、おあ姐さんの皆様、お初にお目にかかります。私、千葉県船橋市で救急医療にたずさわっていますケチン坊井上と申します。以後、お見知りおきの程、宜しくお願い申し上げます。

今回私が紹介させていただきますのは、救急に関する書籍と DVD です。家庭医療に何で救急なのと訝がられても私あ救急屋なので容赦しておくんなさい。その書籍というのは皆さんもうご存知かと思いますが、福岡県は済生会病院の、かの有名な臨床教育部部長、



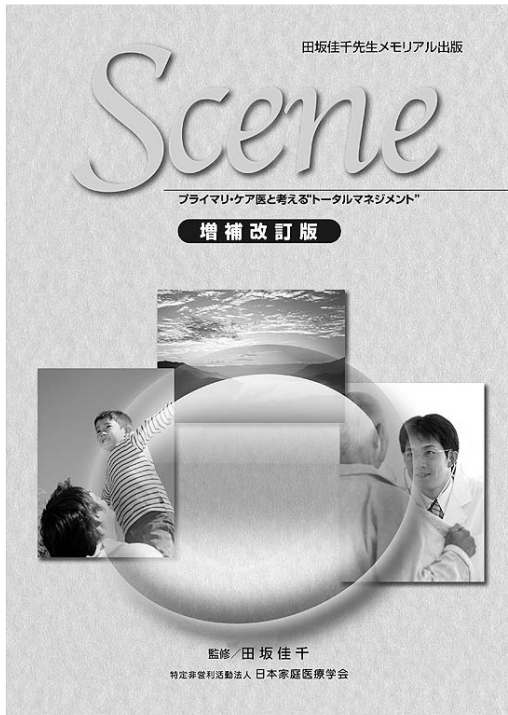
田中和豊先生がお書きになった、医学書院『問題解決型救急初期診療』です。これは研修医の間じゃあ、福井の寺沢先生たちがお書きになった赤本『研修医当直御法度』に匹敵するベストセラーで、うちの研修医もみんな持ってる。でも研修医たちは理解しきれていない。なぜか？

確かに読むだけでも面白いしある程度は理解も出来ますが、これにケアネットの DVD 『Step By Step 初期診療アプローチ』をあわせて観ると鬼に金棒！その訳は？っていいますと、もともとテキストの方も個々のありふれた症状から鑑別、対処法を記載するという使いやすいスタイルになっていますが、DVD もその症状、目次にあわせた構成になっており、さらにテキストだけでは記しきれなかった知識が満載となっているからよだれが出ます。症状の裏の解剖、病態生理から、病気や診断にまつわる裏の歴史まで、語りに語ってくれています。これを研修医だけに読ませて観せていちゃあもったいない。かの田中先生に講演に来てもらっても、5千は6千、一万円はかかっちゃって、時間も短くなっちゃうし、一回こっきりです。それがちよいとお金を出してテキストと DVD を買っても2~3万円でおつりがくるから贅沢でもなんでもない。しかも何度でも講義が聴けちゃう。いい時代になりましたねえ。DVD 観ながらテキストに赤ペンで書き込みしたら、もう立派なお医者さんであるところの皆さんはそれですっかり救急は何でも来いってな気分になること請け合いです（とりあえず気分ですが）。ただし、もし期待はずれでしたら文句は私にはなく田中先生に言って下さいね。では失礼いたします。



Scene 「田坂佳千先生メモリアル出版」

増補改訂版 発行のお知らせ



増補改訂版にあたって

田坂佳千先生メモリアル出版のScene合本(2007年6月刊)の初版は増刷を必要とする需要を得ました。この度、学会生涯教育委員会(協力委員を含む)で手分けして‘Topic file’を入れ替えるとともに、雨森正記先生の「診療所での臨床教育」を新規追加しました。また、各項執筆者に原稿を見直していただき、高野先生には加筆訂正をしていただきました。

田坂先生が渾身の力を込めて編集した本書が更に活用されることを願っています。

特定非営利活動法人 日本家庭医療学会 生涯教育委員会
伴信太郎(委員長)、
武田伸二、雨森正記、一瀬直日、横谷省治
(協力委員) 小笠原幸裕、北西史直、北村大、
木村耕三、佐藤健一、西岡洋右

～主な掲載内容～《目次より》

症状から診る

- めまい 植村 研一(浜松医科大学、岡山大学医学部、
松戸市病院、聖路加国際病院)
- 動悸 伊賀 幹二(伊賀内科・循環器科)
- 咳嗽 高野 義久(たかの呼吸器科内科クリニック)
- 頭痛 木村 眞司(松前町立松前病院)
- 全身倦怠感 松下 明(奈義ファミリークリニック、三重大学、川崎医科大学)
- 血尿 松木 孝和(松木泌尿器科医院、香川大学医学部)
横井 徹(横井内科医院、香川大学医学部)
- 腰痛 仲田 和正(西伊豆病院)
- 皮疹 平本 力(石岡・平本皮膚科医院、自治医科大学)
- 認知症 杉山 孝博(川崎幸クリニック)
- 尿失禁 倉澤 剛太郎(西吾妻福祉病院)
- かぜ症候群 田坂 佳千(田坂内科小児科医院)
- 脳卒中 橋本 洋一郎(熊本市立熊本市市民病院)
- しびれ 鈴木 幹也(東埼玉病院)

『Scene』の購入をご希望の方は、下記事務所宛へ
E-mail、FAX、郵送のいずれかで
「冊数」と「送付先(住所・電話・メール)」を
ご記載のうえお申し込みください。折り返し、
ご購入手続きについてご案内申し上げます。

A4版/P72/フルカラー
1冊の頒布価格:1,800円(送料別送)

お問い合わせ先:
特定非営利活動法人 日本家庭医療学会事務局
〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目22番38号
三洋ビル4F あゆみコーポレーション内
TEL. 06-6449-7760
FAX. 06-6441-2055
E-mail: jafm@a-youme.jp
URL <http://jafm.org/>

事務局からのお知らせ



メーリングリストの加入について

メーリングリストに加入してコミュニケーションの輪を広げよう！

現在、約1,000名の会員が参加しています。希望者は以下の要領で加入してください。

◎参加資格

日本家庭医療学会会員に限ります。

◎目的

メーリングリストは、加入者でディスカッショングループを作り、あるテーマについて議論したり、最新情報を提供したりするためのものです。家庭医療学会の発展のために利用していただけたら幸いです。

◎禁止事項

メールにファイルを添付しないでください（ウイルス対策）。個人情報をごこのリストの中に流さないでください（自己紹介は可）。ごくプライベートなやりとりを載せないでください。

◎加入方法

学会のホームページの「各種届出」のページから申し込むか、事務局宛に次の事項を記入の上、E-mailで申し込んでください。

○会員番号（学会からの郵便物の宛名ラベルに記載されています）

○氏名

○勤務先・学校名

○メールアドレス

会員であることを確認した上で登録いたします。

事務局メールアドレス：E-mail：jafm@a-youme.jp

入会手続について

当学会に関心のある方をお誘いください。学生会員も大歓迎です。入会手続については、学会のホームページの「入会案内」をご覧になるか、事務局までお問い合わせください。

会費納入のお願い

会員の皆様の中で、会費の納入をお忘れになっている方はいらっしゃいませんか。ご確認の上、未納の方は早急に納入をお願いいたします。2年間滞納されますと、自動的に退会扱いとなりますのでご注意ください。ご不明な点は事務局へお問い合わせください。

異動届けをしてください

就職、転勤、転居などで異動を生じた場合はなるべく早く異動届をしてください。異動届は学会のホームページの「各種届出」のページからできます。または事務局宛にE-mail、FAX、郵便などでお知らせください。

編集後記

今号は生涯教育ワークショップ報告を中心とした号となりました。

5月の総会の詳細はHPでもご確認をお願いいたします。また、この総会では欠席の際に委任状が必ず必要となります。総会では合併のための当学会解散について決議しますので、「総会のご出席調査票」（4月上旬発送予定）の案内についてよくお読みください。とても重要な情報です。

後期研修医第1期生修了、専門医試験など新しい家庭医の動きが目立ってくる時期です。学会HPでの情報もまめにチェックしてみてください。

発行所：

特定非営利活動法人 日本家庭医療学会事務局
広報委員：

松下 明（会報担当理事）、朝倉健太郎

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目22-38 三洋ビル4F
あゆみコーポレーション内

TEL 06-6449-7760 / FAX 06-6441-2055

E-mail：jafm@a-youme.jp

ホームページ：http://jafm.org/